

# オスマン帝国の衰退

☆オスマン帝国：トルコ人の国王がスナ派の教主を兼ね、多くの異民族を抱える。

1683 第2次ウィーン包囲の失敗⇒カルロヴィッツ条約(1699)：奥にハンガリーを割譲。

• **アフメト3世**：23代(1703-30)。  
1 \_\_\_\_\_ 時代：宮廷文化の爛熟。<sup>らんじゆく</sup>

1774 クリム=ハン国を露に奪われる。

• **セリム3世**：28代(89-) 洋式軍隊を創設。  
⇒親衛隊(イエニチェリ)が政治介入、改革挫折。

• **マフムト2世**：30代(1808-)

1821-29 ギリシア独立戦争：英仏露が介入。

1826 <sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 全廃：軍の近代化。

1830- 仏(シャルル10世)のアルジェリア出兵。

1831-40 <sup>7</sup> \_\_\_\_\_ 戦争：エジプトが反乱、シリアを占領。  
⇒仏がエジプトを、露がオスマンを支援⇒両国の進出を恐れる英が介入。

1838 英=トルコ通商条約：不平等条約。

• <sup>8</sup> \_\_\_\_\_ : 31代スルタン。

☆<sup>9</sup> \_\_\_\_\_ (恩恵改革)。

：ギョルハネ勅令(1839)で開始。

軍事・産業・行政・司法の近代化。

1853- クリミア戦争：英・仏の介入で露軍を撃退。

⇒財政破綻。徴税権を担保に列強から借款。

• <sup>10</sup> \_\_\_\_\_ : 34代スルタン。

改革派の宰相<sup>11</sup> \_\_\_\_\_ =パシヤ。

1876 <sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 憲法を制定。

・英型立憲君主政、アジア初の近代憲法。

1877- <sup>12</sup> \_\_\_\_\_ 戦争：再び露が侵攻。

⇒スルタンは憲法を停止、専制を復活。

☆<sup>13</sup> \_\_\_\_\_ : 立憲派の秘密結社。

⇒軍の内部に拡大。専制打倒を目指す。

☆アラビア半島：アラブ人の部族国家が抗争。

1744-1818 <sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 王国  
復古主義のイブン=アブドゥル=<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ が  
ネジド地方の豪族<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ 家と結ぶ。  
神秘主義、聖者崇拜、オスマン支配を排撃。

☆エジプト：オスマン領。マムルーク諸侯が統治。

1798- <sup>5</sup> \_\_\_\_\_ のエジプト出兵。

• <sup>6</sup> \_\_\_\_\_ : 総督(1805-)

マムルークを全廃、軍の近代化。

1840 ロンドン四国条約：英・仏・露・普。

① 総督世襲を認め、シリアを放棄させる。

② エジプトと列強との不平等条約。

• **イスマーイール**：5代総督(1863-)

1869 スエズ運河開通：仏人レセップス。

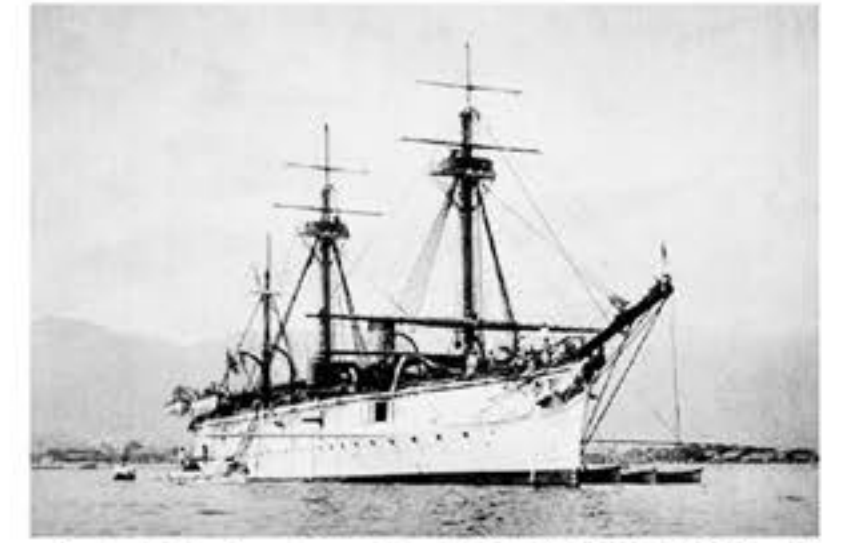
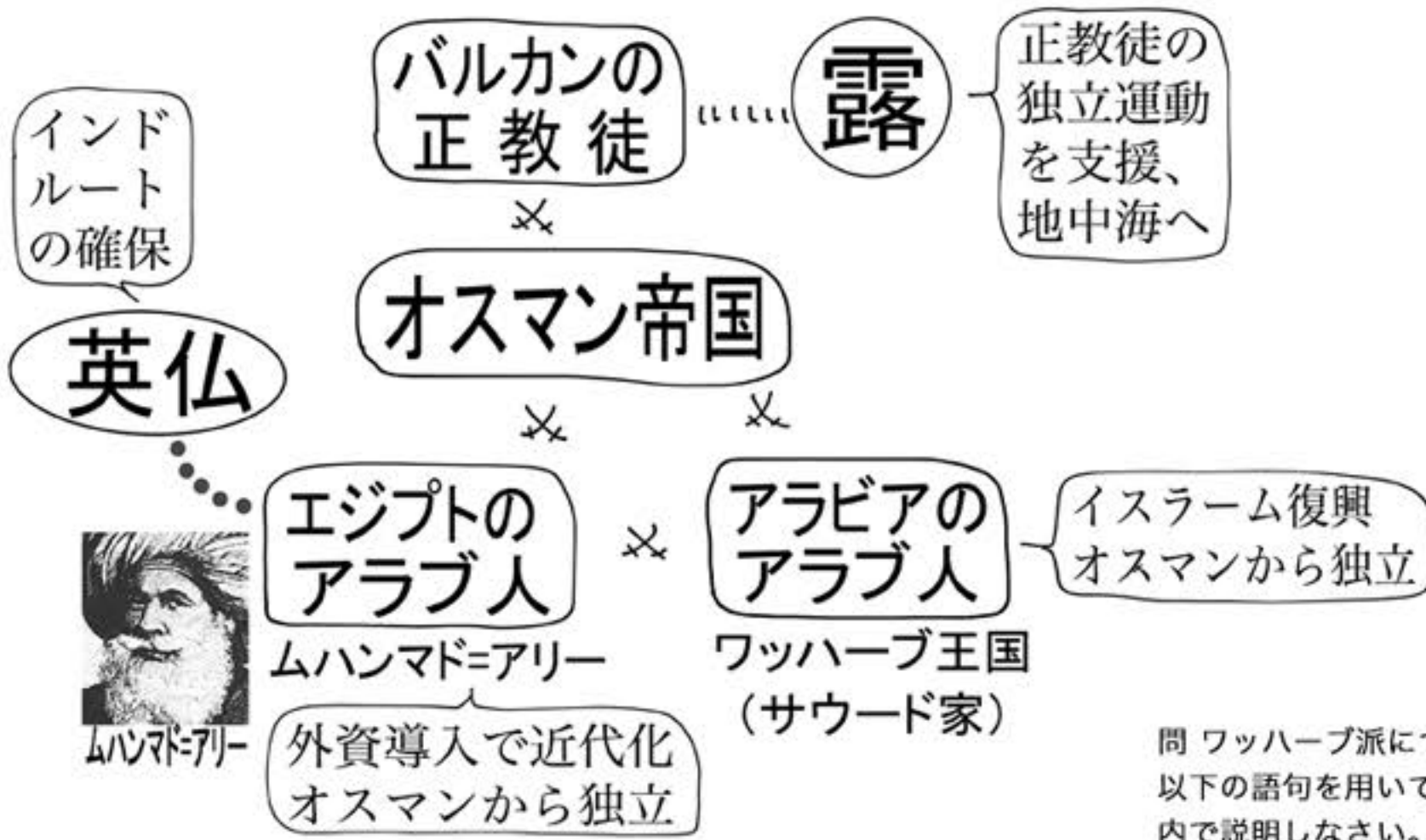
⇒国家財政の破綻。英に株式を売却(75)。

⇒英・仏による財政管理⇒ウラービー革命(81)



- 【解答】 1 チューリップ 2 ワッハーブ 3 サウード  
 4 イェニチェリ 5 ナポレオン 6 ムハンマド=アリー  
 7 エジプト・トルコ 8 アブデュルメジト1世  
 9 タンジマート 10 アブデュルハミト2世  
 11 ミドハト 12 露土戦争 13 青年トルコ

# オスマン帝国の解体



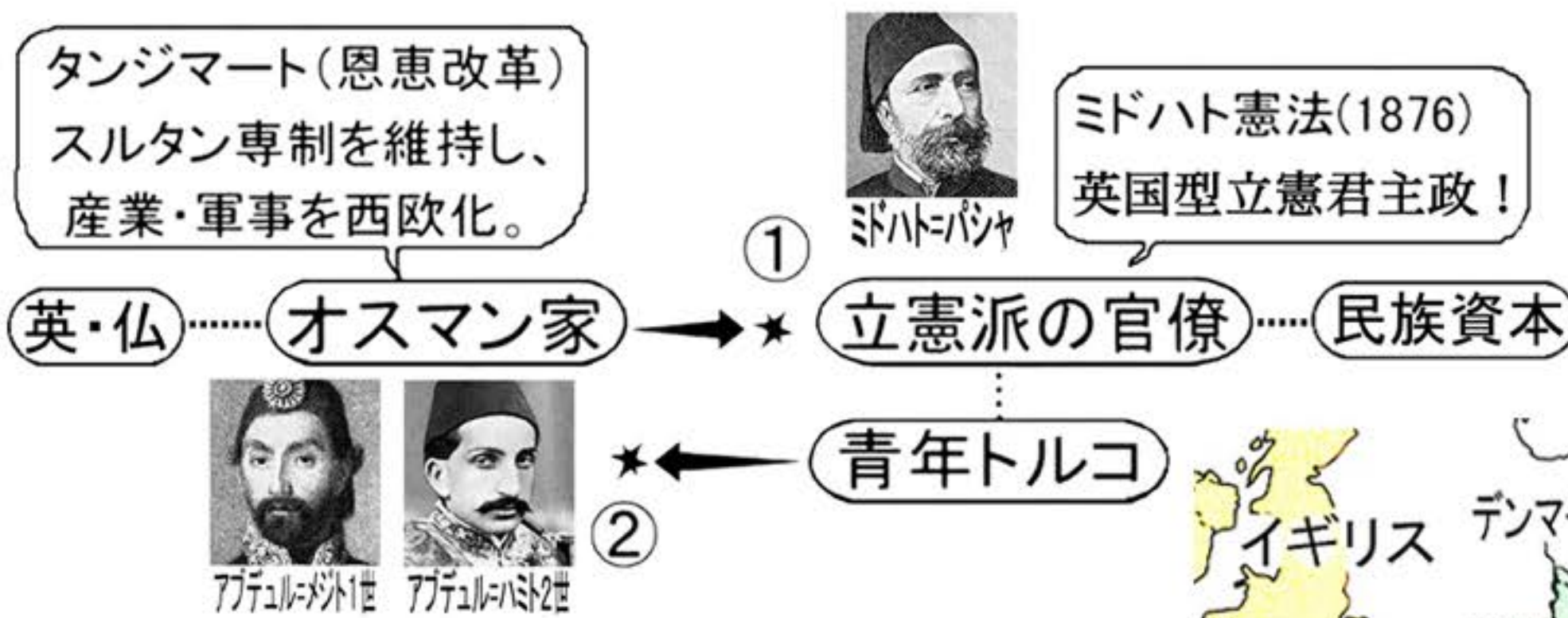
▲ エルトウルル号(1863進水) 日本への親善使節を派遣するが、その帰途、紀伊半島沖で嵐のため沈没(1890)。



▲ ミドハト憲法の発布(1876)

問 第一次世界大戦までのオスマン帝国における近代化について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。  
エジプト 露土戦争 日露戦争

# オスマン帝国の改革



- ① ミドハト憲法停止(1878) ← 露土戦争
- ② 青年トルコ革命(1908) ← 日露戦争



セーヴル条約(1920)

# オスマン帝国の崩壊



第一次世界大戦から帝政崩壊までのトルコの歴史について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。  
パン=トルコ主義 アナトリア

- ① セーヴル条約(1920)
- ② トルコ革命(1919-23)
- ③ ローザンヌ条約(1923)



ムスタファ=ケマル

# オスマン帝国崩壊とアラブ独立

• **アブデュル=ハミト2世** : 憲法停止、専制。露土戦争で敗北。 89- 独、バグダード<sup>ふせつ</sup>鉄道敷設。

1908 <sup>1</sup> 革命 : 青年将校がサロニカで蜂起 ◀ 1904- 日露戦争。

⇒ アブデュル=ハミト2世退位。 <sup>2</sup> 憲法復活、国会開設。

12-13 バルカン戦争で大敗 ⇒ トルコ民族主義の高揚。

☆ <sup>3</sup> 主義 : 露領内のトルコ民族との連帯。 1914- 第一次世界大戦。

14- 大戦で独塊と同盟 ⇒ アラブの反乱。英人ロレンスが指揮。 ◀ 15 <sup>14</sup> 協定。

⇒ 英・仏がイスタンブルを占領。青年トルコ政権崩壊。

20 サン=レモ会議 : 英・仏がオスマン帝国分割で合意。 ◀ 16 サイクス・ピコ協定。

20 <sup>4</sup> 条約 : 連合軍とスルタン政府との講和。

⇒ 英・仏・伊・判アによる小アジアの分割。不平等条約。

(• 仏の委任統治領 ⇒ シリア・レバノン。

• 英の委任統治領 ⇒ パレスティナ・ヨルダン・イラク。 ◀ 18-<sup>15</sup> 王国

19- <sup>5</sup> 軍が小アジアの <sup>6</sup> を占領。

20-22 <sup>7</sup> がアンカラ政府を樹立、領土奪回。

22 トルコ革命 : <sup>8</sup> 制廃止、オスマン帝国滅亡。

23 <sup>9</sup> 条約 : 連合軍との新たな講和。

⇒ セーヴル条約を破棄。アナトリア奪回、不平等条約撤廃。

23- トルコ共和国 (首都 : <sup>10</sup>)

• **ムスタファ=ケマル** : 大統領(23-) <sup>11</sup> の称号。

24 <sup>12</sup> 制廃止 : 政教分離。イスラム法の廃止。

⇒ 婦人解放、文字革命 (アラビア文字 ⇒ <sup>13</sup> 文字)

• <sup>16</sup> : ハーシム家。  
メッカの<sup>シャリーフ</sup>首長。カリフを称す。

▶ 21-イラク王国

• **ファイサル** : フサインの子。

21 英保護下、王位に。

32 独立。英軍は駐留。

01- ネジド王国

• <sup>17</sup>

: リヤドの豪族。

ワッハーブ派。

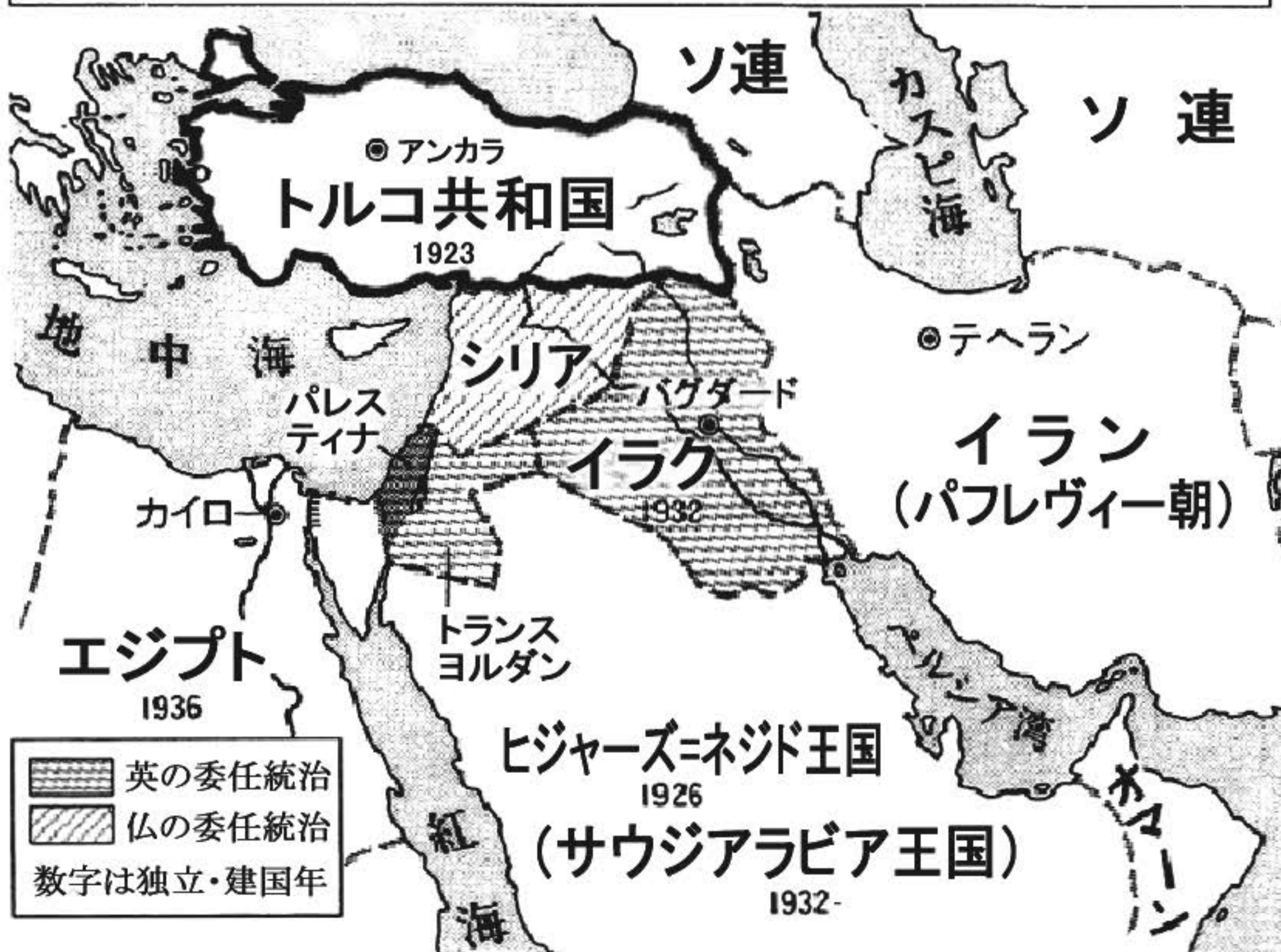
⇒ フサインと対立。

☆ ◀ 24 メッカ攻略。

26- ヒジャーズ=ネジド王国

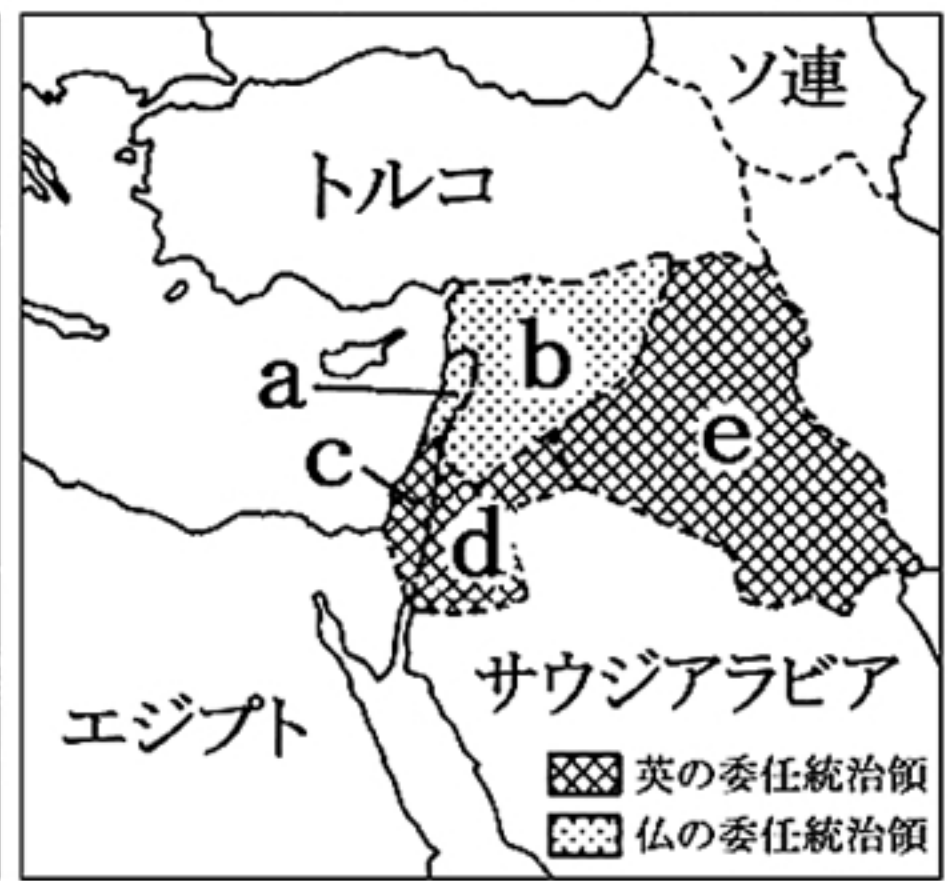
32<sup>18</sup> 王国。

38 油田の発見。



▲ ファイサル王子とロレンス(右)

# オスマン帝国の分割



① 第一次大戦の開戦時(1914)

② サイクス・ピコ協定(1916)

③ ローザンヌ条約(1923)

(史料1) <sup>1</sup> 協定(1915)  
イギリスは…メッカの太守によって要求されている範囲内で、すべての地域におけるアラブ人の独立を認め、これを支援する用意がある。…アラブ側は、イギリスだけに助言と指導を仰ぐ。

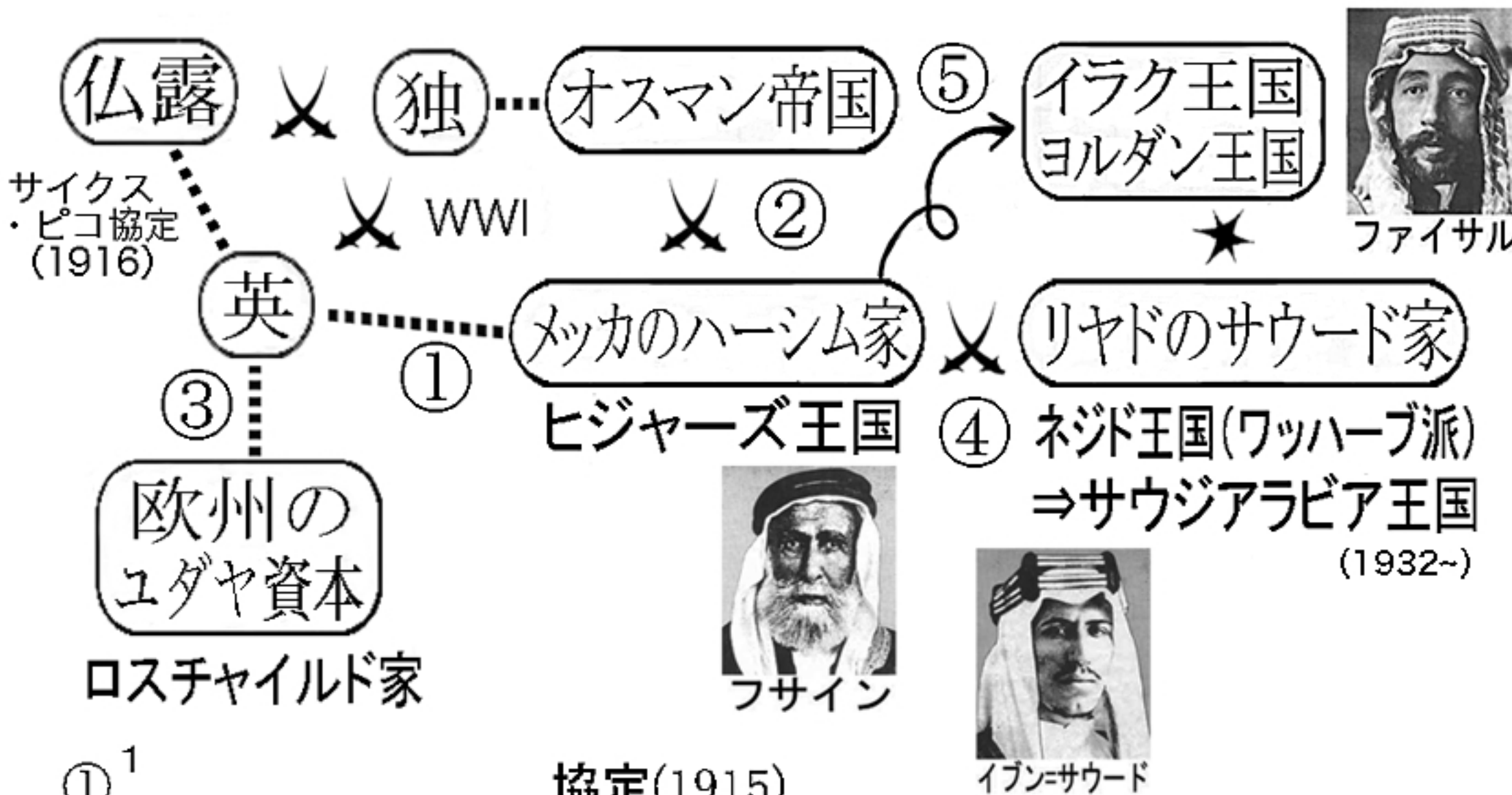
(史料2) <sup>2</sup> 協定(1916)  
1. 英・仏は、アラブ首長の宗主権のもとに…アラブ国家あるいはアラブ連合国家を承認し、保護する用意がある。A地域については仏が、B地域については英が、事業および投資の優先権を有す。  
2. 青色地域については仏が、赤色地域については英が…直接的、間接的な統治および管理を行う。  
3. 茶色地域については、国際管理が行われる。

a レバノン      b シリア  
c パレスティナ      d トランスヨルダン  
e イラク

(史料3) <sup>3</sup> 宣言(1917)  
国王陛下の政府は、パレスチナにおけるユダヤ人の民族的故郷(National Home)の設立を好ましく考えており、この目的の達成を円滑にするために、最善の努力を行うつもりです。貴下(注)がこの宣言を、シオニスト連盟にお知らせいただければ、光栄に存じます。(注) 英国シオニスト連盟会長W.ロスチャイルド

(解答) 1. フサイン・マクマホン  
2. サイクス・ピコ 3. バルフォア

※「フサイン」は「フセイン」でも可。アラビア語の母音はa・i・uしかなく、正確には「フサイン」となる。



第一次世界大戦以後のアラブ独立運動について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。  
マクマホン イブン=サウード

## オスマン崩壊とアラブ独立

- 1 青年トルコ
- 2 ミドハト
- 3 パン=トルコ
- 4 セーヴル
- 5 ギリシア 6 イズミル
- 7 ムスタファア=ケマル (ケマル=パシヤ)
- 8 スルタン
- 9 ローザンヌ
- 10 アンカラ
- 11 アタチュルク
- 12 カリフ 13 ラテン
- 14 フサイン・マクマホン
- 15 ヒジャーズ 16 フサイン
- 17 イブン=サウード
- 18 サウジアラビア

① <sup>1</sup> 協定(1915)

② アラブの反乱  
(英人将校<sup>2</sup>が指揮)

③ <sup>3</sup> 宣言(1917)

④ サウード家がメッカ攻略。  
⑤ フサインの2子を王に擁立。  
⇒英の委任統治領に。

(解答) 1 フサイン・マクマホン  
2 ロレンス 3 バルフォア



▲ イブン=サウードとF.ローズヴェルト  
サウード家は米系石油資本に油田開発権を与え、米国の同盟国となった。

# イラン・アフガンの植民地化

☐ トルコ系

1722 アフガン人がイランに侵攻。サファヴィー朝滅亡。★ ← **アフガニスタン** (イラン系パシトゥーン人)

1736-アフシャール朝 / 1750- ザンド朝

• **ナーディール=シャー** : アフガン人を撃退。インド遠征。 → ★ 1739 デリー攻略。

1796-<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 朝 (首都:<sup>2</sup> \_\_\_\_\_)

• **スンナ派王朝**とシーア派住民が対立。露が侵攻(26-)

1828 <sup>3</sup> \_\_\_\_\_ 条約 : 露にアルメニア割譲。

37 英との通商条約 : 治外法権承認 ⇨ 英製品の流入。

48- <sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 教徒の乱 : シーア派系の教団が反乱。

91 <sup>5</sup> \_\_\_\_\_ =ボイコット運動 : 英企業の専売権に抗議。  
: **パン=イスラーム主義者**<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ が指導。

1905- <sup>7</sup> \_\_\_\_\_ 革命 : 国会を開設(06) ⇨ 国王との内戦 ⇨ 露軍が侵攻。国会停止。 ⇨ 07 <sup>8</sup> \_\_\_\_\_ 協商 : イラン北部を露、東南部とアフガニスタンを英の勢力圏に。

14- 第一次世界大戦 ⇨ ロシア革命で、露が撤退。

1925- <sup>9</sup> \_\_\_\_\_ 朝 (首都:テヘラン)

• <sup>10</sup> \_\_\_\_\_ : 軍事クーデタで実権(21) ⇨ 国王。  
⇨ 女性解放。不平等条約の破棄。国名をイランに。

1747- ドゥッラーニー朝

• **アフマド=ハーン** : アフガン最初の国王。

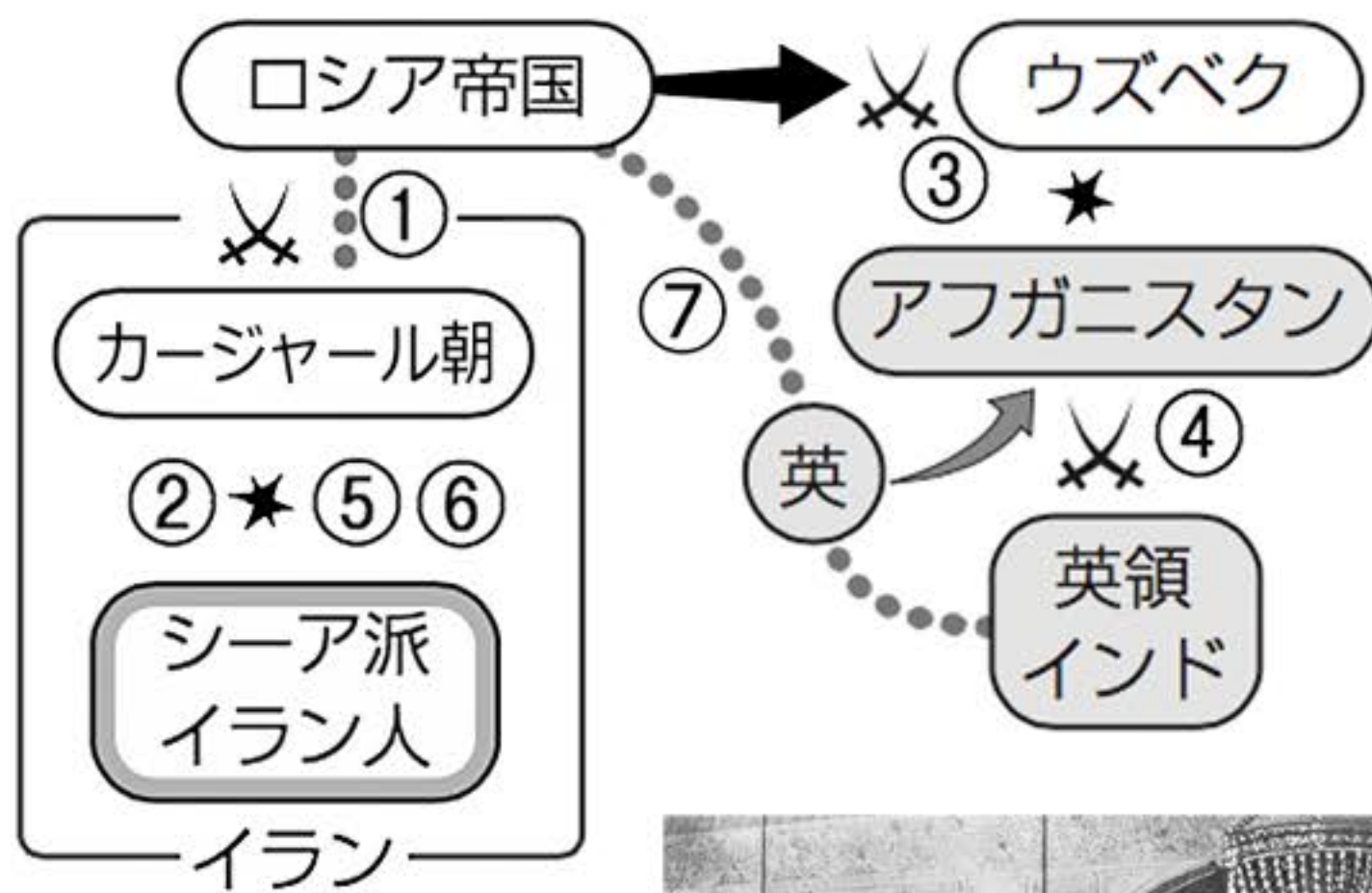
1826- バーラクザイ朝

1838- 第1次アフガン戦争 ← : 英軍を撃退 ⇨ 露に接近。

1878 第2次アフガン戦争 ← : 英に敗北、保護国に。

1919 第3次アフガン戦争 ← : 英領インドに侵攻。 ⇨ 英から外交権奪回、独立。(ラウルピンディー条約)

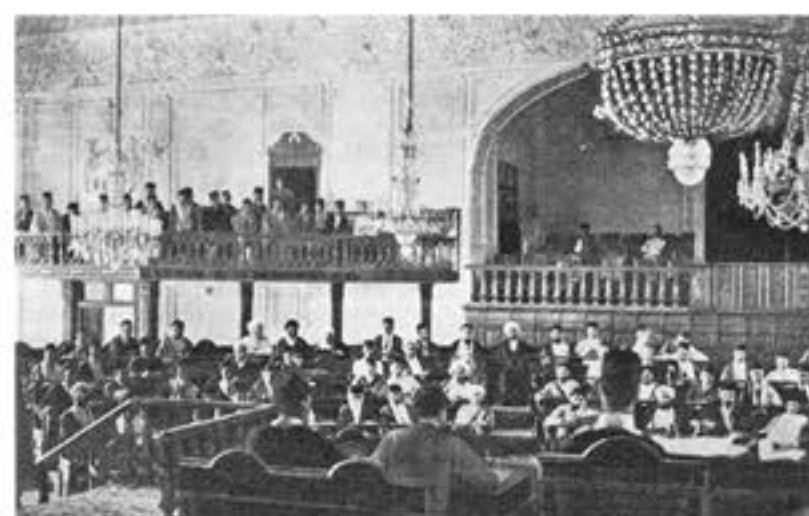
英領インド帝国



- ① \_\_\_\_\_ 条約(1828)
- ② \_\_\_\_\_ 教徒の乱(1848~50)
- ③ \_\_\_\_\_ 3ハン国併合、保護国化(~76)
- ④ \_\_\_\_\_ 戦争(1878)
- ⑤ \_\_\_\_\_ 運動(1891)
- ⑥ \_\_\_\_\_ 革命(1905~11)
- ⑦ 英露協商(1907)

- ① トルコマンチャーイ
- ② バーブ ③ ウズベク
- ④ 第2次アフガン
- ⑤ タバコ=ボイコット
- ⑥ イラン立憲

問 イランの近代化について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。  
アフガーニー 英露協商 レザー=ハーン



▲ イラン最初の議会(1906)

12代 たいけん イマーム  
バーブ (P9)  
一般 信徒



サイイド=アリー=ムハンマド



アフガーニー



レザー=ハーン

## イラン・アフガン植民地化

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 カージャール    | 6 アフガーニー   |
| 2 テヘラン      | 7 立憲革命     |
| 3 トルコマンチャーイ | 8 英露       |
| 4 バーブ教徒     | 9 パフレヴィー   |
| 5 タバコ       | 10 レザー=ハーン |

# 19世紀の英露対立 the Great Game



# インドの植民地化

1526-1858 ムガル帝国(首都:デリー⇒アグラ⇒デリー)

- 1 : 6代(1658-) 英東インド会社が進出。
- ⇒ 三大拠点<sup>2</sup> 3 4
- ⇒ 仏領<sup>5</sup> 6 と抗争。

1707 アウラングゼーブ帝の死。ヒンドゥー諸侯の反乱、太守の独立。

1623 アンボイナ事件  
: モルッカ諸島で英蘭が抗争。  
英はインドに撤退。

1708- マラーター同盟

- デカン高原のヒンドゥー諸侯。ムガル帝国から独立。

1761 デリー攻略に失敗。  
⇒ ムガル帝国も威信失墜。帝国は首都デリー周辺だけの地方政権に転落。

1744- 7 戦争 ← 1740<sup>8</sup> 継承戦争。  
: 英が仏の総督デュプレクスを破る。

1757 9 の戦い ← 1756- 10 戦争。(フレンチ・インディアン戦争)  
: 11 率いる英軍が、  
仏・12 太守を破る。  
⇒ 英東インド会社は、  
13 権を得る。

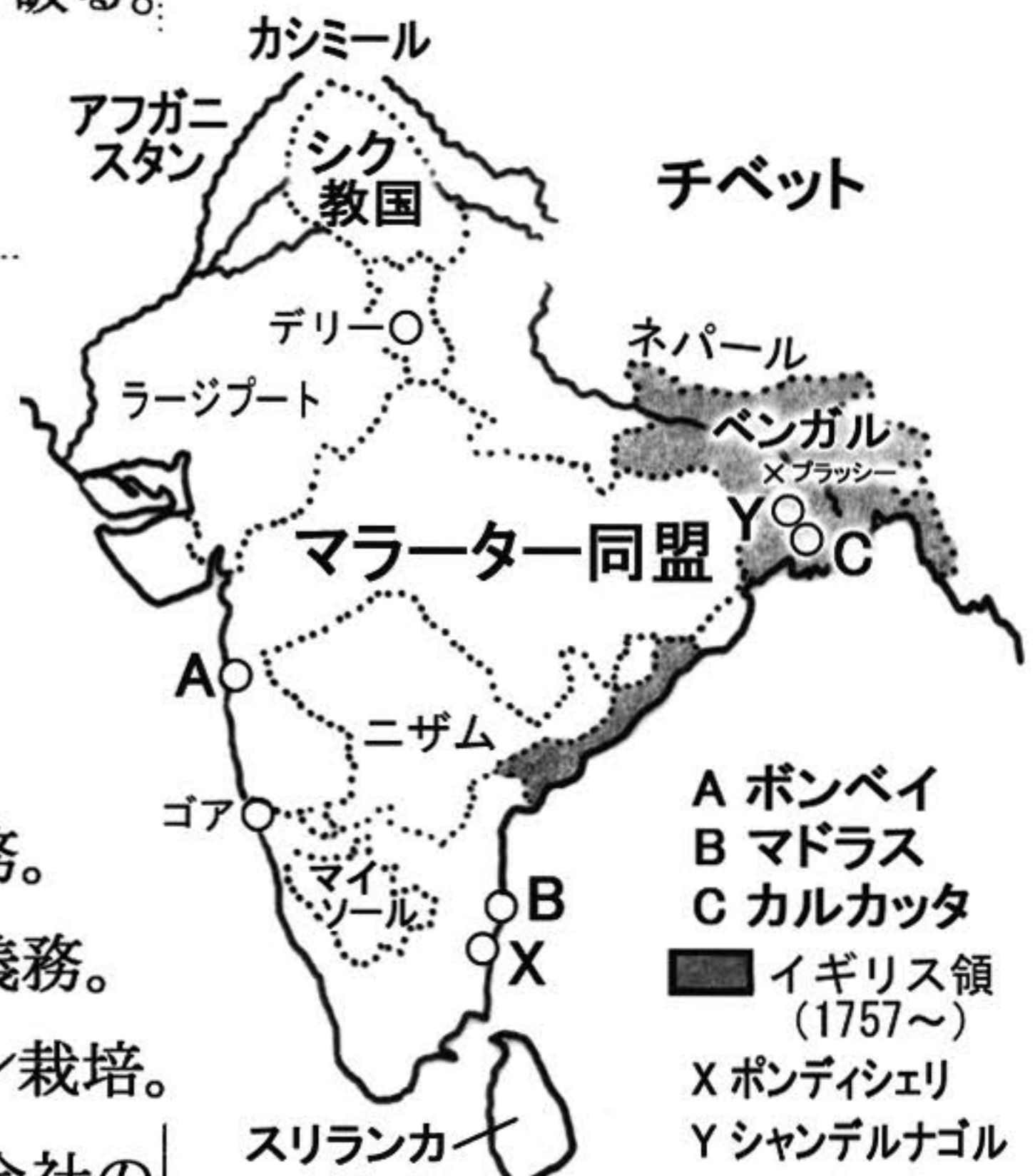
1767- 14 戦争 : 英が南インドを征服。  
1775- 15 戦争 : 英がデカン高原を征服。  
1814- ネパール征服 : 英の保護国とする。  
1815 16 併合 : ウィーン会議で蘭から。  
1845-49 17 戦争 : パンジャブ地方を併合。  
☆ 18 制 : ベンガルの地主に徴税義務。  
☆ ライヤットワーリー制 : 南インドでは農民に納税義務。  
☆ 19 : 商業的大農園。茶・藍・アヘン栽培。  
☆ インド貿易の自由化 : 産業資本家が要求。東インド会社の  
20 廃止(13) ⇒ インドでの 21 停止(33)

1767- 14 戦争 : 英が南インドを征服。  
1775- 15 戦争 : 英がデカン高原を征服。  
1814- ネパール征服 : 英の保護国とする。  
1815 16 併合 : ウィーン会議で蘭から。  
1845-49 17 戦争 : パンジャブ地方を併合。  
☆ 18 制 : ベンガルの地主に徴税義務。  
☆ ライヤットワーリー制 : 南インドでは農民に納税義務。  
☆ 19 : 商業的大農園。茶・藍・アヘン栽培。  
☆ インド貿易の自由化 : 産業資本家が要求。東インド会社の  
20 廃止(13) ⇒ インドでの 21 停止(33)

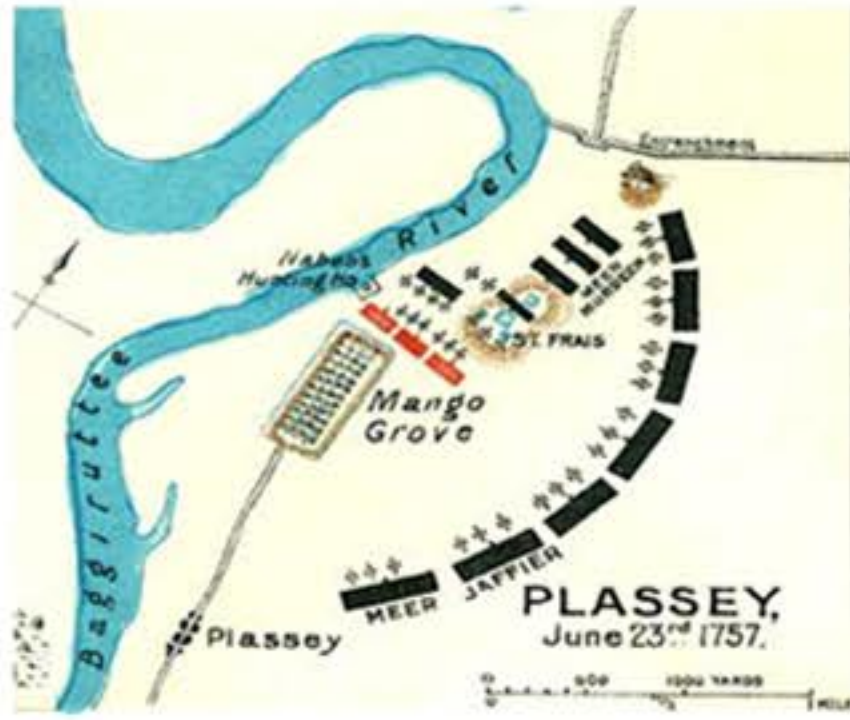
⇒ 英製品の流入で手工業は壊滅。重税による農村の荒廃。  
1857- インド大反乱 : 傭兵(22) 反乱に民衆が合流。  
⇒ デリー占領 ⇒ ムガル皇帝バハードウル=シャー2世を擁立。  
⇒ 英軍の反撃、皇帝逮捕、ビルマ流刑 ⇒ ムガル帝国滅亡。  
⇒ 東インド会社を 23 (58)。英本国の直接統治へ。

1877- 24 帝国 (実質的には1858-)

- 英首相 25 がヴィクトリア女王を皇帝に擁立。
- (• 直轄領 : カルカッタのインド総督が直接統治。  
• 26 : 総督が 550の藩王を通じて間接統治。

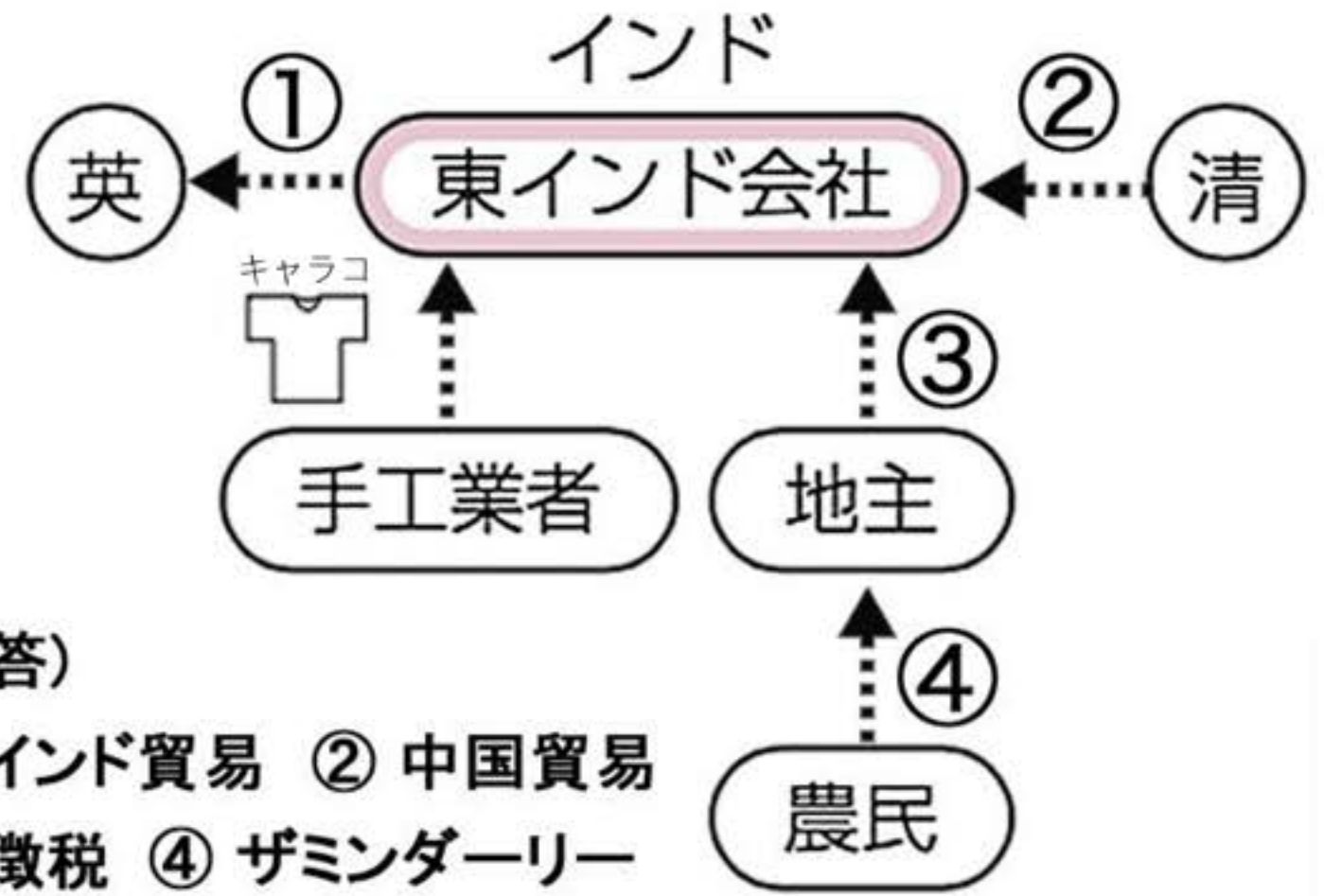


- インドの植民地化
- 1 アウラングゼーブ
  - 2 ボンベイ
  - 3 マドラス
  - 4 カルカッタ
  - 5 ポンディシェリ
  - 6 シャンデルナゴル
  - 7 カーナティック
  - 8 オーストリア
  - 9 プラッシー
  - 10 七年
  - 11 クライヴ
  - 12 ベンガル
  - 13 徴税
  - 14 マイソール
  - 15 マラーター
  - 16 スリランカ (セイロン島)
  - 17 シク
  - 18 ザミンダーリー
  - 19 プランテーション
  - 20 インド貿易独占権
  - 21 商業活動
  - 22 シパーヒー
  - 23 解散
  - 24 インド
  - 25 ディズレーリ
  - 26 藩王国



▲ クライヴと会見する  
ミール=ジャファール

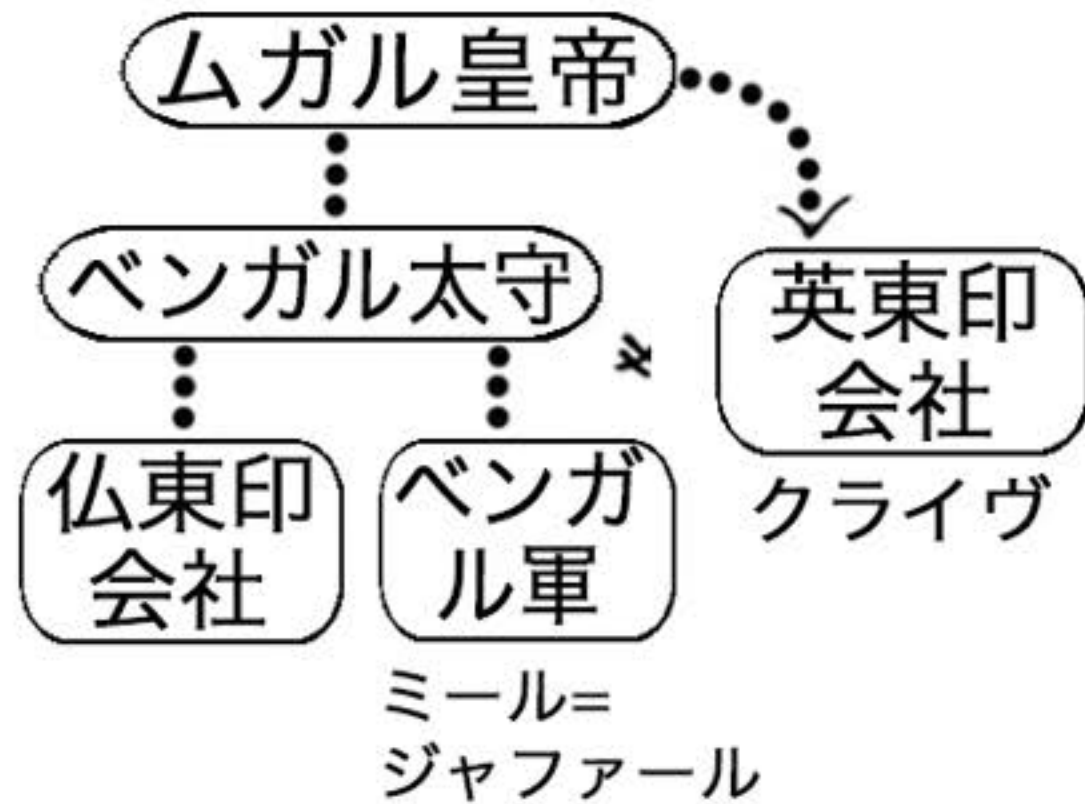
## プラッシーの戦い(1757)後



(解答)

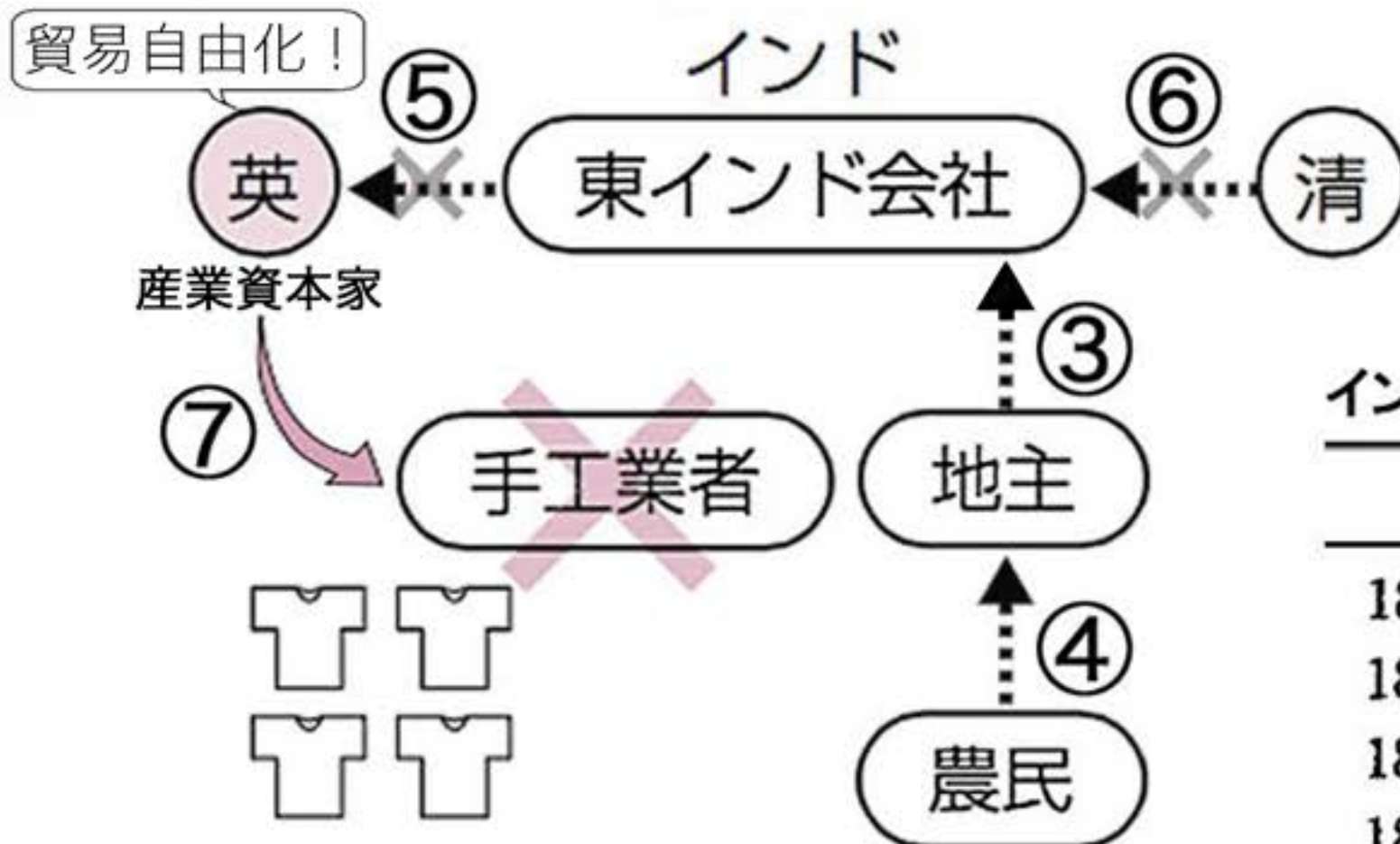
- ① インド貿易 ② 中国貿易  
③ 徴税 ④ ザミンダーリー

## プラッシーの戦い(1757)



- ① \_\_\_\_\_ 独占権 } エリザベス1世  
② \_\_\_\_\_ 独占権 } の特許状(1600)  
③ \_\_\_\_\_ 権 : ムガル皇帝から獲得(1765)  
④ \_\_\_\_\_ 制 : ベンガルの地主制  
(南インドのライヤットワーリー制では農民から直接徴税)

## インド貿易の自由化(1813)後



- ⑤ インド貿易の自由化(1813)  
⑥ 中国貿易の自由化(1833)  
⑦ 機械製綿布の流入

インドの主な貿易相手国と貿易収支 (単位 百万ルピー)

	a	b	c	d	その他
1828年度	18.9	21.0	4.8	4.5	8.5
1834年度	13.9	31.4	3.2	2.7	7.6
1837年度	15.1	40.6	7.2	3.0	4.9
1839年度	25.4	10.1	5.7	9.0	12.8
1850年度	-2.4	53.6	1.8	2.2	10.7
1860年度	-57.1	102.5	6.4	5.6	37.4

問 インド大反乱にいたるイギリスのインド政策の展開について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。  
徴税権 貿易独占権

## イギリス東インド会社の業務

	いつから	いつまで
インド貿易独占権	1 _____ の	1813 英議会在が廃止(3 _____ の要求)
中国(茶)貿易独占権	特許状(1600)による。	1834 英議会在が廃止。
インドでの徴税権 (インド統治権)	2 _____ の戦い(1757)後、 ムガル皇帝から(1765)※	4 _____ (1857-)の責任を問われ、 1858 東インド会社5 _____。

1 エリザベス1世 2 プラッシー 3 産業資本家 4 インド大反乱(シパーヒーの反乱) 5 解散

※ベンガル太守を継いだミール=カーシム(ジャッファールの甥)はイギリスから離反し、ムガル皇帝を擁して挙兵したが、ブクサールの戦い(1765)で敗北。ムガル皇帝は、ベンガル・ビハール・オリッサの徴税権をイギリス東インド会社に与えた。



## インドの独立運動

1877-1947 英領インド帝国(首都:カルカッタ⇒デリー)

☆インド民族主義の覚醒…民族資本の成長、英語の公用語化。  
ナショナリズム

⇒寡婦殉死の廃止運動(ラーム=モ=ハン=ローイ)、富の流出論(ナオロジー)。  
サティ  
かふじゅんし

1885 ボンベイに<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 設立:総督の諮問機関。

⇒インド最大の政治結社<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ の成立。

⇒<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ ら過激派の台頭で、反英姿勢を強める◀

1905 総督<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ の<sup>5</sup> \_\_\_\_\_ 令。

:反英運動の根拠地を2州に分け、宗教対立をあおる。

1906 国民会議派<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 大会:4綱領を採択。

①英貨排斥(ボイコット) ②国産品愛用 (<sup>7</sup> \_\_\_\_\_)

③自治 (<sup>8</sup> \_\_\_\_\_) ④<sup>9</sup> \_\_\_\_\_

1906 <sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 設立:親英的ムスリム結社。

⇒大戦中、オスマン帝国の呼びかけに応じ、反英に転ず。◀

1906 ラクナウ協定:会議派と連盟が、自治権要求で協調。

⇒英(インド担当相モンタギュー)は戦後のインド自治を約束(17)。

1919 <sup>11</sup> \_\_\_\_\_ 法 総督独裁下の形式的自治。

1919 <sup>12</sup> \_\_\_\_\_ 法:反英運動弾圧、裁判なしで投獄。

⇒<sup>13</sup> \_\_\_\_\_ 事件:英軍が市民集会に発砲。

⇒1500人が死傷。各地で反英暴動。ガンディー帰国。

1919- 非暴力・不服従運動 (<sup>14</sup> \_\_\_\_\_)

: <sup>15</sup> \_\_\_\_\_ が指導。大衆動員でストライキ、英貨排斥。

⇒国民会議派のなかで、完全独立を主張する左派が台頭。

1929 国民会議派<sup>16</sup> \_\_\_\_\_ 大会: <sup>17</sup> \_\_\_\_\_ が議長。

⇒英からの完全独立 (<sup>18</sup> \_\_\_\_\_) を決議。

1930 ガンディーの<sup>19</sup> \_\_\_\_\_ :専売への抗議。

⇒第2回非暴力・不服従運動:英貨排斥、徴税拒否。

1930-32 <sup>20</sup> \_\_\_\_\_ 会議:英(マクドナルド内閣)がロンドンで開催。

⇒ガンディーとの妥協をはかるが決裂⇒再び運動を弾圧。

35 <sup>21</sup> \_\_\_\_\_ 法:州政府に責任内閣制を導入。

⇒ベンガル・パンジャブなどでムスリム連盟の州内閣が成立。

40 ムスリム連盟がパキスタンの分離独立を要求。

1875 スエズ運河買収。

1899- 南ア戦争。

1904- 日露戦争。



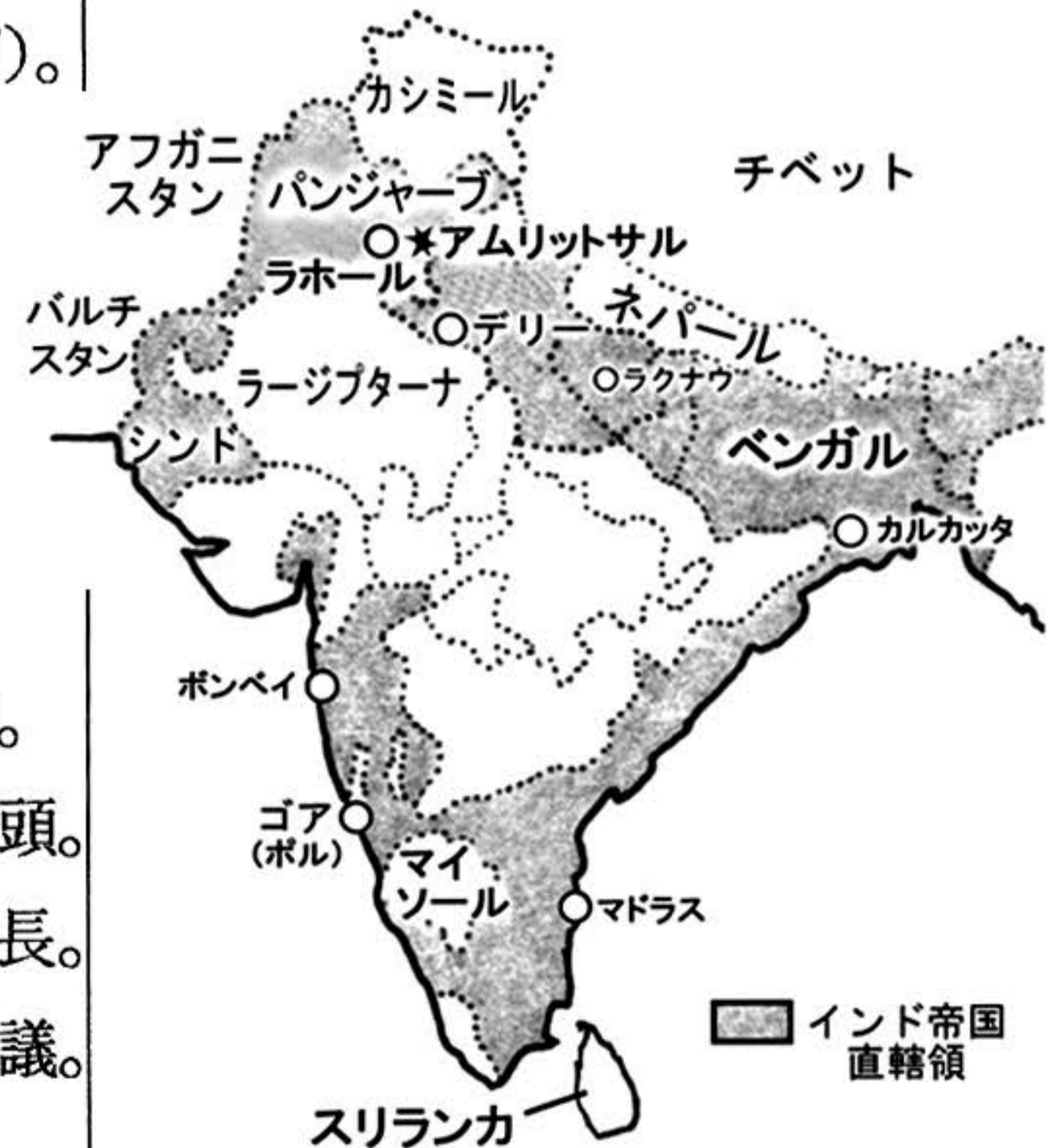
ティラク



ネルー

1906 英露協商。

1914- 第一次世界大戦。



インドの独立運動

1 インド国民会議

2 国民会議派

3 ティラク

4 カーゾン

5 ベンガル分割

6 カルカッタ

7 スワデーシ

8 スワラージ

9 民族教育

10 全インド

=ムスリム連盟

11 インド統治

12 ローラット

13 アムリットサル

14 サティヤーグラハ

15 ガンディー(ガンジー)

16 ラホール

17 ネルー

18 プールナ=スワラージ

19 塩の行進

20 英印円卓会議

21 新インド統治

# 日露戦争後のインド

1. \_\_\_\_\_ 令  
(1905)で対立を煽れ!



▲ サティ (寡婦殉死) とラーム=モーハン=ローイ

英国 ..... インド総督  
1906- ガーソン ★

全インド=ムスリム連盟

少数派の権利を守れ!

- (解答)  
1.ベンガル分割  
2.カルカッタ  
3.スワラージ  
4.スワデーシ

★ 国民会議派 大会 ティラク  
1906 2. \_\_\_\_\_

3. \_\_\_\_\_ (自治)  
4. \_\_\_\_\_ (国産品愛用)  
英貨排斥、民族教育



# 第一次大戦後のインド

5. \_\_\_\_\_ 法:形だけの自治。  
6. \_\_\_\_\_ 法:反英運動を弾圧。

問 日露戦争後のインドの独立運動の展開について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。  
ベンガル スワラージ

英国 ..... インド総督  
★ (1919) 事件

- (解答)  
5.インド統治  
6.ローラット  
7.アムリットサル  
8.ラホール  
9.プールナ=スワラージ  
10.サティヤーグラハ

独 ..... ムスリム連盟

★ 国民会議派 大会 ネルー  
1919 8. \_\_\_\_\_

英国に対しジハードを!

カリフ擁護! (ヒラーファト)

ガンディーの運動  
9. 完全独立!

非暴力・不服従  
10. 塩の行進(1930)

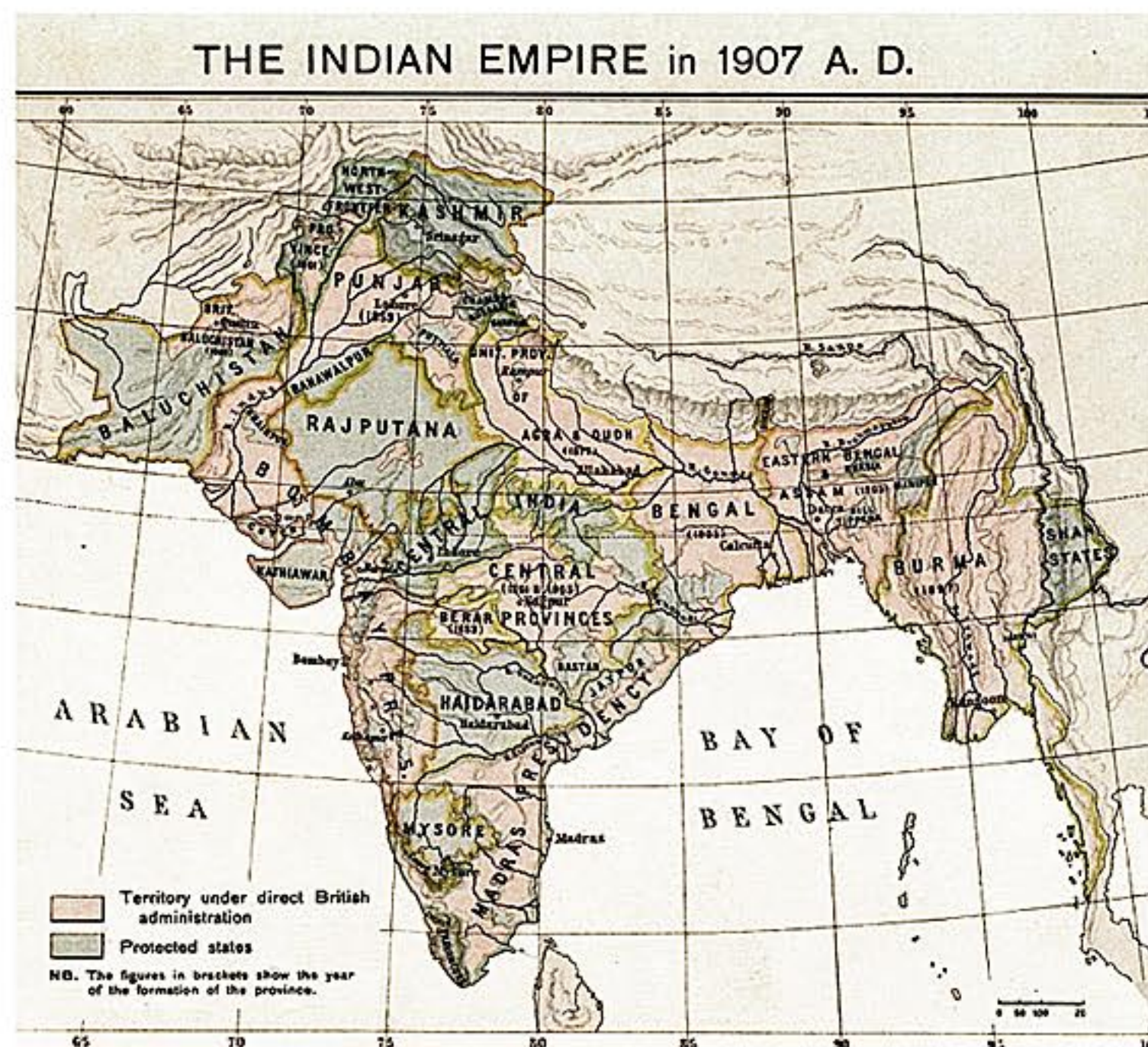


▲ 塩の行進(1930)



▲ インド皇帝ヴィクトリア

問 第一次世界大戦後のインドの独立運動の展開について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。  
サティヤーグラハ  
新インド統治法 ローラット法



# インド帝国 A インド統治法(1919) B 新インド統治法(1935)

